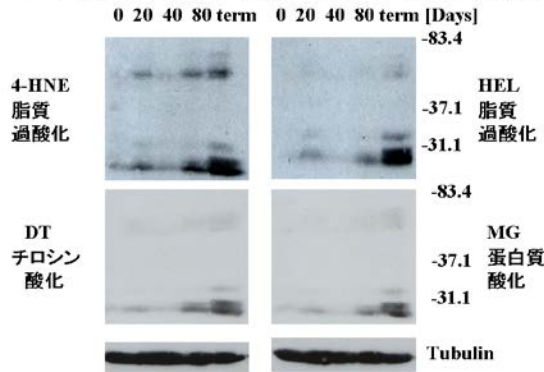


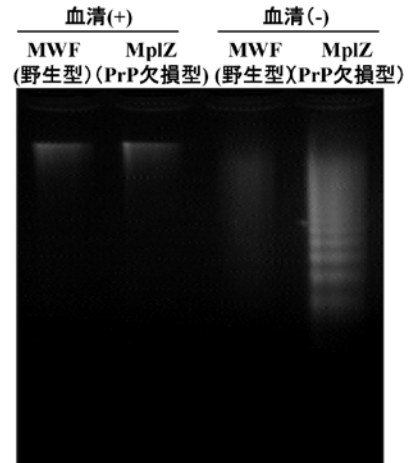
プリオン病における酸化ストレス関与に関する研究

研究分担者： 琉球大学医学部 作道章一

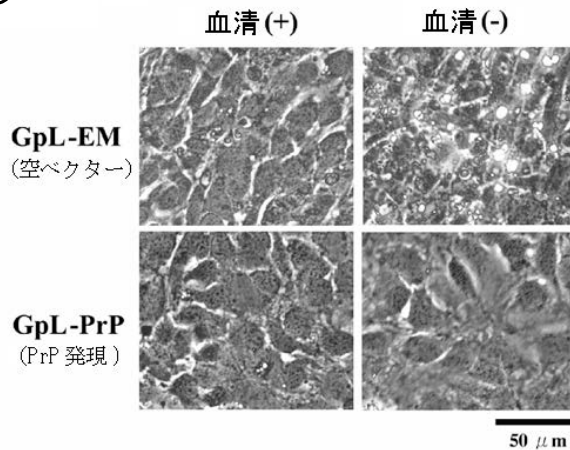
A プリオン感染マウス脳での酸化ストレス動態



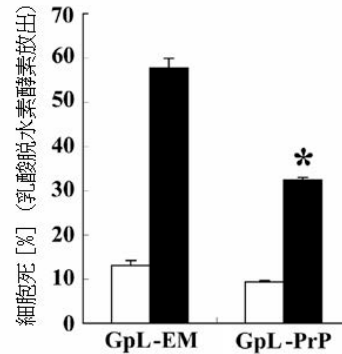
B



C



D



解説

- 脂質過酸化マーカー(4-HNE、HEL)、チロシン酸化マーカー(DT)、蛋白質酸化マーカー(MG)の上昇がプリオン脳内接種後のマウス脳で感染後早期(20日程度)に観察された(図A)。
- プリオン蛋白質(PrP)遺伝子欠損グリア細胞株(GpL)およびマクロファージ細胞株(MplZ)を作製し、これらの細胞が血清除去による酸化ストレスに感受性であること、PrP再発現により細胞死が抑制されることを示した(図B-D)。